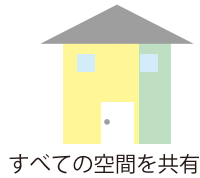


大家族のふれあいを重視

完全同居型



空間の多くを、ふたつの家族が共有。
家事や子育ての協力がしやすい。
個々の空間を共有することで生まれるストレスを、
解消することがポイントとなる。

【メリット】

- ・ 建築費が抑えられる
- ・ 大家族ならではの楽しさを満喫できる

【デメリット】

- ・ 共用部分が使いづらくなる
- ・ 生活時間のずれにより騒音などで気を遣う

生活の一部をほどよく共有

部分共用型



玄関や浴室などの設備の一部を共用しながらも、
親世帯・子世帯が生活するゾーンを分ける。
親世帯と子世帯の生活時間帯が異なる場合や、
適度にプライバシーを保ちたい方はこの部分共用型がオススメ。

【メリット】

- ・ 間取りの自由度が高い

【デメリット】

- ・ 完全同居型に比べ建築費が高い
- ・ 二世帯間の考えや思いの調整が必要

完全分離型

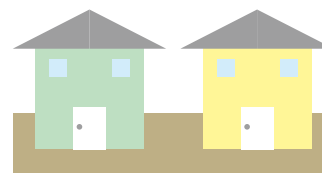
1 棟タイプ

1 棟の建物を「上下」又は「左右」に分け、完全に分離することで、
各世帯のプライバシーを重視できる。
どちらかの世帯に大家族が集まることのできる空間を
設けることがポイント。
また、将来の賃貸併用にも対応しやすくなる。



2 棟タイプ

ひとつの敷地に二世帯がそれぞれ独立した住居を建築するタイプ。
住戸間には庭や通路などを設けて二世帯が行き来しやすくなる。
採光や通風も良くなるといった特長もある。



【メリット】

- ・ 二世帯のライフスタイルの維持
- ・ プライバシーの尊重

【デメリット】

- ・ 2 棟分に近い建築コストがかかる
- ・ 広い土地が必要